

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月14日
【四半期会計期間】	第30期第1四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	株式会社ランシステム
【英訳名】	RUNSYSTEM CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 日高 大輔 埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38
【本店の所在の場所】	（同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」 で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区池袋2丁目43番1号（東京本社）
【電話番号】	03（6907）8111（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 面高 英雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第29期 第1四半期連結 累計期間	第30期 第1四半期連結 累計期間	第29期
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日	自平成28年7月1日 至平成29年6月30日
売上高 (千円)	2,186,075	2,266,465	8,466,057
経常利益 (千円)	87,203	44,213	101,512
親会社株主に帰属する四半期純 利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失 () (千円)	39,138	3,452	226,781
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	33,869	2,934	232,465
純資産額 (千円)	1,992,127	1,728,727	1,725,792
総資産額 (千円)	5,071,458	5,508,742	5,460,049
1株当たり四半期純利益金 額又は1株当たり当期純損失金 額 () (円)	19.65	1.78	116.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	39.3	31.4	31.6

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第29期は1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容に重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の改善が進み、雇用・所得環境は緩やかな回復基調にあるものの、消費者の節約志向は根強く、また海外経済の不確実性もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。サービス業・アミューズメント業界においては、娯楽の多様化、実店舗における雇用確保の問題等、厳しい競争環境が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは「基本の徹底」「安定した財務基盤の構築」「新規事業の拡張」に注力し、既存の主力事業である店舗運営事業の健全な運営とその強みを活かした関連事業における収益の拡大、新規業態店舗の開発等に努めて参りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,266百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益46百万円（同47.8%減）、経常利益44百万円（同49.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3百万円（同91.2%減）となりました。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

<店舗運営事業>

当事業につきましては、複合カフェ「スペースクリエイティブ自遊空間」チェーンにおいて設備やサービスの拡充、イベントの企画運営を図り、集客力の高い店舗開発と、より快適な空間を提供できるよう一層のサービス向上に努めております。店内設備においては、日々のお客様のニーズに合った環境を整えるため店内の改装を実施し、デラックスブース等の稼働率の高いブースに入れ替えを行っております。また、人気コンテンツである最新オンラインゲームやカラオケ、ダーツの最新機種を導入によって常に新鮮な店内環境を構築しております。この他、ヴァーチャルリアリティ(VR)を体験できるヘッドマウントディスプレイ(HMD)を直営店全店とフランチャイズ店舗にも導入しております。VRは市場の関心も高く、今後も設置店舗を増やし、自遊空間オリジナル映像を配信するなどしてコンテンツ価値の向上を図って参ります。加えて、スマートフォン向け会員証アプリ・ゲームを継続的に推進し、既存会員の来店数の向上と新規顧客の誘致に努めております。

また、収益力の拡大を見込み、平成29年5月に子会社化したINCユナイテッド株式会社（現：株式会社ランセカンド）の運営するインターネットカフェの自遊空間への屋号変更・改装を進めております。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末時点では、グループ店舗数191店舗（直営店舗81、FC加盟店舗110）となり、当セグメント全体の売上高は1,970百万円（前年同期比5.1%増）、セグメント利益は122百万円（同28.7%減）となりました。

<不動産事業>

当事業につきましては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、計画通りの売上推移となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は85百万円（前年同期比6.5%減）、セグメント利益は21百万円（同3.7%増）となりました。

上記事業の他に、システム等の外販事業及びメディア広告事業、子会社である株式会社ランウェルネスにおいて児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を運営しております。システム等の外販事業では、入会システム、会員管理システム、自動入退場システム等を販売しております。メディア広告事業では、主に自遊空間店内外における広告営業やスマートフォン向けアプリの開発及びアプリを活用したサービスを実施しております。児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業では、放課後等デイサービス施設「ハッピーキッズスペースみんと」を運営しております。「みんと」では、児童・生徒の発達支援に関するサービスを行っており、独自の療育プログラムに基づき、お子さま一人ひとりが自立し健やかに育むことができる環境を整えております。

(2)財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,521百万円となり、前連結会計年度末に比べ58百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が67百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は3,987百万円となり、前連結会計年度末に比べ9百万円減少しました。これは主に、建物及び構築物が46百万円増加した一方、敷金が31百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、総資産は5,508百万円となり、前連結会計年度末に比べ48百万円増加しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,555百万円となり、前連結会計年度末に比べ103百万円増加しました。これは主に、短期借入金が100百万円増加したことなどによるものであります。

固定負債は2,224百万円となり、前連結会計年度末に比べ57百万円減少しました。これは主に、長期借入金が33百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は3,780百万円となり、前連結会計年度末に比べ45百万円増加しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、1,728百万円となり、前連結会計年度末に比べ2百万円増加しました。これは主に、利益剰余金が3百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、31.4%（前連結会計年度末は31.6%）となりました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,360,000
計	6,360,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月14日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	2,070,900	2,070,900	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,070,900	2,070,900	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	2,070,900	-	803,314	-	841,559

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 130,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式1,940,300	19,403	-
単元未満株式	普通株式 300	-	-
発行済株式総数	2,070,900	-	-
総株主の議決権	-	19,403	-

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ランシステム	埼玉県狭山市狭山台 4丁目27番地の38	130,300	-	130,300	6.29
計	-	130,300	-	130,300	6.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	557,462	624,699
売掛金	271,429	272,252
商品及び製品	242,207	227,741
原材料及び貯蔵品	63,276	48,942
未収還付法人税等	22,358	22,358
その他	308,306	327,476
貸倒引当金	2,561	2,388
流動資産合計	1,462,479	1,521,082
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,332,547	1,379,297
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	282,663	308,671
土地	732,243	732,243
建設仮勘定	35,013	-
有形固定資産合計	2,382,468	2,420,212
無形固定資産		
のれん	79,626	74,157
その他	117,127	109,341
無形固定資産合計	196,753	183,498
投資その他の資産		
敷金	1,169,385	1,138,332
その他	290,966	287,301
貸倒引当金	42,004	41,685
投資その他の資産合計	1,418,348	1,383,948
固定資産合計	3,997,569	3,987,659
資産合計	5,460,049	5,508,742
負債の部		
流動負債		
買掛金	300,458	228,155
短期借入金	150,000	250,000
1年内償還予定の社債	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	515,277	521,436
未払法人税等	32,385	37,163
賞与引当金	-	22,500
資産除去債務	18,986	33,682
その他	385,723	412,897
流動負債合計	1,452,831	1,555,835
固定負債		
社債	50,000	40,000
長期借入金	1,708,664	1,675,490
資産除去債務	239,143	225,766
その他	283,617	282,923
固定負債合計	2,281,424	2,224,179
負債合計	3,734,256	3,780,014

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	803,314	803,314
資本剰余金	841,559	841,559
利益剰余金	166,258	169,711
自己株式	92,469	92,469
株主資本合計	1,718,663	1,722,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,129	6,610
その他の包括利益累計額合計	7,129	6,610
純資産合計	1,725,792	1,728,727
負債純資産合計	5,460,049	5,508,742

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
売上高	2,186,075	2,266,465
売上原価	1,815,806	1,933,053
売上総利益	370,269	333,412
販売費及び一般管理費	281,431	287,049
営業利益	88,838	46,362
営業外収益		
受取利息及び配当金	436	423
販売手数料収入	3,052	1,834
その他	107	1,460
営業外収益合計	3,596	3,718
営業外費用		
支払利息	3,375	4,104
控除対象外消費税等	638	1,516
その他	1,216	245
営業外費用合計	5,230	5,867
経常利益	87,203	44,213
特別利益		
固定資産売却益	114	11,181
特別利益合計	114	11,181
特別損失		
固定資産除却損	176	0
店舗閉鎖損失	-	9,484
減損損失	-	17,094
特別損失合計	176	26,578
税金等調整前四半期純利益	87,141	28,816
法人税等	48,003	25,363
四半期純利益	39,138	3,452
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	39,138	3,452

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	39,138	3,452
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,268	518
その他の包括利益合計	5,268	518
四半期包括利益	33,869	2,934
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,869	2,934
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
減価償却費	73,996千円	83,202千円
のれんの償却額	2,248千円	5,468千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	店舗運営 事業	不動産 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,873,714	90,908	1,964,622	221,452	2,186,075	-	2,186,075
セグメント間の内部売上高 又は振替高	282	2,761	3,043	-	3,043	3,043	-
計	1,873,996	93,669	1,967,666	221,452	2,189,118	3,043	2,186,075
セグメント利益	171,688	20,496	192,184	25,225	217,409	128,571	88,838

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム等の外販事業、メディア広告事業、児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 128,571千円は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	店舗運営 事業	不動産 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,970,201	85,024	2,055,226	211,239	2,266,465	-	2,266,465
セグメント間の内部売上高 又は振替高	856	2,761	3,617	-	3,617	3,617	-
計	1,971,058	87,786	2,058,844	211,239	2,270,083	3,617	2,266,465
セグメント利益	122,373	21,252	143,625	31,397	175,023	128,660	46,362

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム等の外販事業、メディア広告事業、児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 128,660千円は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「店舗運営事業」セグメントにおいて、閉店が決まった店舗について減損損失を認識しております。当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては、17,094千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	19円65銭	1円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	39,138	3,452
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	39,138	3,452
普通株式の期中平均株式数(株)	1,991,687	1,940,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月7日

株式会社ランシステム

取締役会 御中

アスカ監査法人

指定社員 公認会計士 若尾 典邦 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 石渡 裕一郎 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ランシステムの平成29年7月1日から平成30年6月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ランシステム及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。